

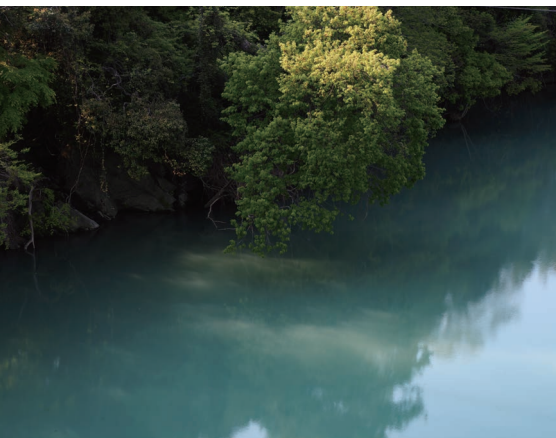


撮影モード A (絞り優先)
絞り F5.6
シャッター速度 1/640秒
露出補正 ±0EV
ISO感度 200
WB オート
使用レンズ M.ZUIKO DIGITAL
ED 12-100mm F4.0 IS PRO
焦点距離 100mm

POINT 3 進化した顔優先/瞳優先AFで横顔もうつむき顔も美しく

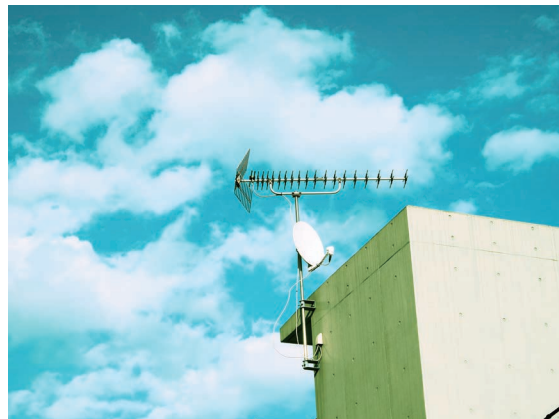
カメラが人物の顔や瞳を検出してピントを合わせる顔優先 / 瞳優先 AF 機能。E-M1 III では検出の精度が上がり、横を向いていて片方の瞳しか写っていないときや、小さな顔や瞳も検出しピントを合わせる。さらに動画撮影中も瞳にピントを合わせ続けることが可能になった。

POINT 4 ハイレゾショットで高精細な撮影を実現



三脚ハイレゾショットを使えば、撮像素子を動かしながら計8枚の写真を撮影し、1枚に合成することで約80M相当の高解像度の画像を生成できる。また、手持ち撮影可能な約50M相当の高解像度の画像を生成する手持ちハイレゾショットにも対応した。

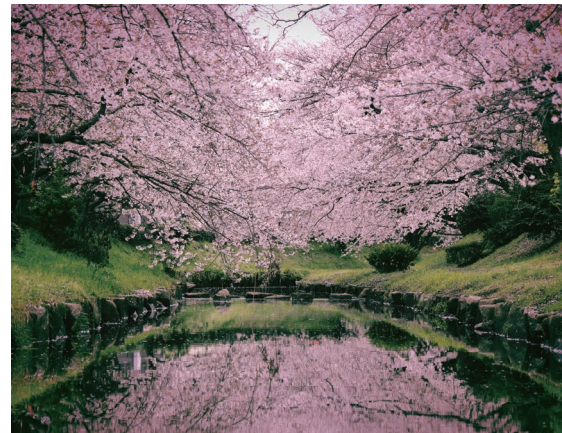
撮影モード A (絞り優先) 絞り F8.0 シャッター速度 1/25秒 露出補正 -1.3EV
ISO感度 200 WB オート 使用レンズ M.ZUIKO DIGITAL ED 12-100mm F4.0 IS PRO
焦点距離 25mm その他 三脚ハイレゾショット



撮影モード P (プログラム) 絞り F9.0 シャッター速度 1/400秒
露出補正 +0.3EV ISO感度 200 WB オート
使用レンズ M.ZUIKO DIGITAL ED 12-45mm F4.0 PRO 焦点距離 45mm
その他 アートフィルター：クロスプロセス

POINT 5 アーティスティックな表現を楽しめるアートフィルター

全16種類のアートフィルターを使えば、どんなシーンでも手軽にアーティスティックな写真に変えられる。特殊なレンズを使わないとできない芸術的な表現が、カメラ1台で気軽に楽しめる。日常の何気ない風景も印象的に仕上げることができ、表現の幅が格段に広がるだろう。



撮影モード A (絞り優先)
絞り F4.0
シャッター速度 1/125秒
露出補正 -0.3EV
ISO感度 LOW (64相当)
WB 晴天
使用レンズ M.ZUIKO
DIGITAL ED 12-100mm
F4.0 IS PRO
焦点距離 75mm
その他 アートフィルター：
ネオノスタルジ

まずは撮影してみる

実際に撮影するために、ファインダーやモニターの調整をしたり、画像サイズを決めたりして、シャッターボタンを押してみよう。

1 モニターの表示内容



電源をONにし、OKボタンを押すと、モニターに撮影の設定の状態が一覧になった、**LV スーパーコンパネ**※が表示される。緑色のカーソルが表示され①、カーソルで選択している項目名が左上に表示される②。△▽◀▶もしくはリアダイヤル

を回して設定する機能を選び、フロントダイヤルを回すとその機能の設定を変更することができる。

※ファインダー撮影時はスーパーコンパネ（LV スーパーコンパネと同じ内容を設定できるパネル）を常時モニターに表示しておくことができる。

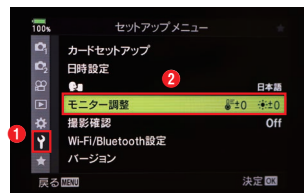
2 視度を合わせる



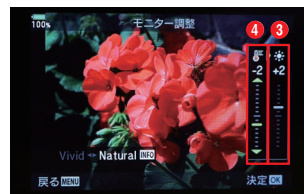
ファインダーに目を近づけると、アイセンサーが反応しファインダーに撮影画面が表示される。自分の視力に合うように、ファインダー左側にある視度調整ダイヤルを回す。画面の周辺に表示される文字が、はっきり見えるように調整するとよい。

3 モニターを調整する

モニターは、撮影環境や個人の感覚によっても見え方が違う。それぞれの状況に応じて、明るさや色温度、表示の具合を調整して、見やすくしておくといよい。ただし、実際に写る画像の仕上がりとの差が生じないように、バランスを考えながら調整しよう。



MENUボタンを押しメニューを表示。[セッティングメニュー] ①の中の[モニター調整] ②を選択しOKボタンを押す。

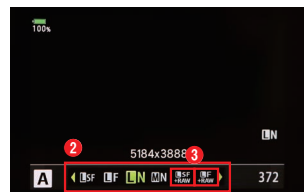


※（明るさ）③と（色温度）④のレベルバーがモニター右側に表示される。◀▶でどちらかを選択し、△▽でそれぞれのレベルを調整し、終わったらOKボタンを押す。

4 画像サイズ・画質を設定する



LVスーパーコンパネを開き、△▽◀▶で[画質モード] ①を選択しOKボタンを押す。カードスロット①と②の両方にSDカードが入っている場合は、それぞれのスロットの画質モードを設定できる。



◀▶で画像サイズと画質②を選ぶ。[+RAW] ③はRAW形式（→P156）を同時に記録する。OKボタンを押して決定。

Section
06マニュアル撮影(M) /
バルブ撮影(B)

Keyword

長時間露光 / BULB / LIVE TIME

2

OM-D E-M1 Mark IIIの撮影を学ぶ

マニュアル撮影は、撮影者が絞り値とシャッター速度を決める撮影モード。明るさ、動き、ぼけなどを自由にコントロールできる。バルブ撮影は、3種類の長時間露光撮影ができるモード。どちらも使いこなすにはある程度の知識が必要なので、上級者向きといえる撮影モードだ。

1 マニュアル撮影とは？



カメラが自動で露出を決定してくれるP、A、Sモードに対して、マニュアル撮影は、絞り値とシャッター速度ともに撮影者が自由に設定し、露出をコントロールすることができる。

2 マニュアル撮影のシャッター速度と絞り値の設定方法



モードダイヤルをMに合わせると①、絞り値とシャッター速度が緑色になる。リアダイヤルでシャッター速度、フロントダイヤルで絞り値を設定する。

100 F4.5

フロントダイヤルを②のほうに回すと絞り値が小さくなる。

100 F8.0 -3.0

フロントダイヤルを③のほうに回すと絞り値が大きくなる。

60 F5.6 -3.0

リアダイヤルを④のほうに回すとシャッター速度が遅くなる。

1250 F5.6 -3.0

リアダイヤルを⑤のほうに回すとシャッター速度が速くなる。



3 バルブ撮影とは？

モードダイヤルをBに合わせるとバルブ撮影モードになり、シャッターを長時間開いて露光する。バルブ、ライブタイム、ライブコンポジット(→P88)の3種類の長時間露光撮影ができる。バルブはシャッターボタンを全押ししている間シャッターが開き露光を続け、離すと閉じる。ライブタイムは一度シャッターボタンを全押しするとシャッターが開いて露光し、もう一度押すと閉じる。初期設定では8分で、最大30分まで開けることができる。



4 バルブ撮影とライブタイム撮影

モードダイヤルをBに合わせる①。フロントダイヤルで絞り値を設定し、リアダイヤルでBULB②、LIVE TIME③、LIVE COMP(→P89)の選択を行う。

バルブは夜景や花火など30秒くらいの撮影に向いており、ライブタイムは光の少ない場所や星の光跡の撮影におすすめ。ぶれを防ぐために三脚でカメラを固定し、リモートケーブルやスマートフォンを利用したワイヤレスリリース(→P169)を使おう。

バルブ撮影



B ② BULB F5.6

B ③ LIVE TIME F5.6



要点

- マニュアル撮影では、絞り値とシャッター速度を撮影者が任意に設定できる。
- 花火や夜景を撮影するときは、バルブ撮影やライブタイム撮影に設定する。

2

OM-D E-M1 Mark IIIの撮影を学ぶ

Section
08星空AFで
星景撮影をする

Keyword 星空 AF

星空AFは、星空にピントを合わせることに特化したAF機能。夜空のごく小さい星にも確実にピントを合わせられ、本格的な天体写真の撮影が可能だ。撮影の状況に合わせて、[速度優先]と[精度優先]の2つのモードが選べる。

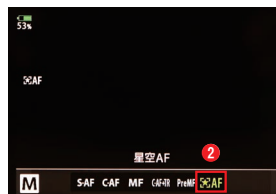
1 星空 AF を設定する



LV スーパーコンパネを開き、[AF 方式]を選択する①。



撮影画面でAEL/AFLボタンを押す③。

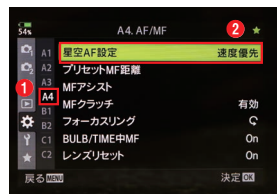


[星空 AF] を選択し②、OK ボタンを押して決定する。

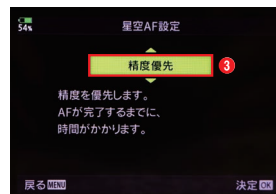


星空 AF がスタートする④。

2 星空AFの詳細を設定する



カスタムメニューの[A4. AF/MF]を開き①、[星空 AF 設定]を選んでOK ボタンを押す②。



△マで[速度優先]か[精度優先]を選び③、OK ボタンで決定する。

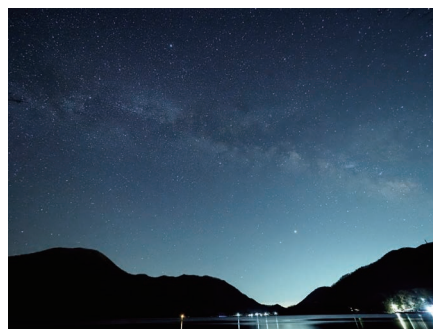
2 速度優先で撮影する



撮影モード M (マニュアル) 絞り F2.8
シャッター速度 6.0秒 露出補正 ±0
ISO感度 8000 WB 3500K
使用レンズ M.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PRO
焦点距離 27mm
その他 星空AF

星空AFの[速度優先]で撮影。ピント合わせの際には、AFターゲット枠を使ってピントを合わせる星を大雑把に選んでから星空AFを作動させるとピントを合わせやすい。手持ちでファインダーを覗きながら撮影したため、ぶれないように速度優先で撮影した。

3 精度優先で撮影する



撮影モード M (マニュアル) 絞り F2.8
シャッター速度 20秒 露出補正 ±0
ISO感度 6400 WB 蛍光灯
使用レンズ M.ZUIKO DIGITAL ED 7-14mm F2.8 PRO
焦点距離 7mm
その他 星空AF

星空AFの[精度優先]で撮影。三脚にカメラを固定して撮影したので、スピードよりも精度を求めて精度優先で撮影した。

要点

- 星空 AF 機能を使えば、ごく微小な星にもくっきりとピントを合わせることができる。
- 手持ちで撮影するか三脚で撮影するかによって [精度優先] と [速度優先] を使い分けるとよい。

Section
03単焦点レンズを
使って撮影する

Keyword

明るいレンズ / ぼけ

単焦点レンズは余計な機構がなくシンプルな造りが特徴だ。その分、開放F値が小さい明るいレンズが多く、暗所撮影やぼけをいかした写真を撮れるのが大きなメリットだ。ズームすることができないので、フットワークを軽くして**被写体との距離を変えて撮影する**必要がある。

1 単焦点レンズの活用ポイント

単焦点レンズには、**やわらかく大きなぼけ**を作れるという特徴がある。明るい単焦点レンズの開放F値で**被写界深度**（→P41）を浅くすると、やわらかく大きなぼけを手軽に作ることができる。中望遠レンズであるM.ZUIKO DIGITAL ED 45mm F1.2 PROはさらに被写界深度が浅くなりやすく、背景の緑を大きくにじんだようにぼかすことができた。



撮影モード M（マニュアル） 絞り F2.5 シャッター速度 1/3200秒
露出補正 -1.7EV ISO感度 1250 WB オート
使用レンズ M.ZUIKO DIGITAL ED 45mm F1.2 PRO 焦点距離 45mm

2 単焦点レンズを使いこなす



明るい単焦点レンズは、**暗い場所での撮影**にとても向いている。開放F値1.2の明るさをいかし、暗い水族館でもISO感度を上げすぎることなく、背景も大きくぼかして撮影できた。

撮影モード S（シャッター優先）
絞り F1.2
シャッター速度 1/100秒
露出補正 ±0EV
ISO感度 2000 WB 晴天
使用レンズ M.ZUIKO DIGITAL
ED 25mm F1.2 PRO
焦点距離 25mm

単焦点レンズとは

レンズ内で画角を変える必要がないため、シンプルな造り。1つの画角に最適化してレンズが設計されているので、ズームレンズと比べて画質が優れ、明るくシャープでぼけもきれいに作りやすいという特徴がある。フットワークをいかし、さまざまな距離やアングルを探して構図を決めていく中で、新しい発見ができるレンズでもある。



M.ZUIKO DIGITAL ED 25mm
F1.2 PRO（35mm判換算 /
50mm相当）/ 防塵・防滴機構



M.ZUIKO DIGITAL ED 45mm
F1.2 PRO（35mm判換算 /
90mm相当）/ 防塵・防滴機構

要点

- 開放F値が小さいため、暗いシーンでもぶれにくい写真が撮れる。
- ぼけをいかした写真が撮れる。

Section
04印象的な
夜景写真を撮る

Keyword

ライブタイム / 手ぶれ補正 / ワイヤレスフラッシュ

夜景を撮影する際は、まずは三脚が使用可能な場所かどうかをしっかりと確認してから撮るようにしよう。屋内の展望台などでは、三脚の使用が禁止されている場所が増えてきているので注意が必要だ。三脚が使えない場合でも、**ボディ内手ぶれ補正が最大7段あるE-M1 III**なら、手持ちでも十分に美しい夜景を撮影することができる。

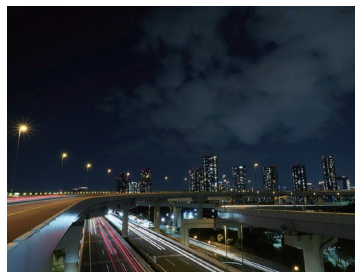


三脚+長秒時撮影で水辺の夜景を撮る

三脚が使える場所では、長秒時撮影にチャレンジしよう。特に水辺で長秒時撮影をすると、水が街の光を反射してきれいに色づくので試してみてほしい。作例はライブタイム（→P45）で川沿いの街並みを撮影した。モニター上で露出の度合いをリアルタイムで確認しながら撮影できるので、あらかじめ撮影時間を決めずに撮りはじめても、求める明るさになったタイミングで撮影を終了できる。

カメラ設定	撮影モード	M (マニュアル)	絞り	F11.0	シャッター速度	30.9秒
	露出補正	±0EV	ISO感度	200	WB	電球
	使用レンズ	M.ZUIKO DIGITAL ED 12-100mm F4.0 IS PRO	焦点距離	54mm		

1 手持ちで長秒時撮影する

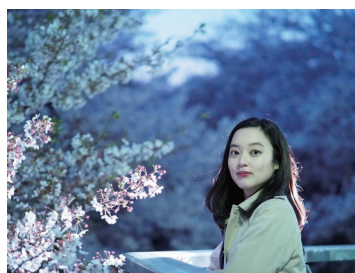


撮影モード A (絞り優先)
絞り F14.0
シャッター速度 4.0秒
露出補正 -0.7EV
ISO感度 800 WB 電球
使用レンズ M.ZUIKO DIGITAL
ED 12-200mm F3.5-6.3
焦点距離 12mm

カメラ設定

ボディ単体で最大7段の手ぶれ補正を持つ E-M1 IIIなら、4秒程度のシャッター速度であれば手持ちでもぶれずに長秒時撮影ができる。車のライトの光跡や街灯の光芒を出すために、絞り値を絞り込んで撮影した。手ぶれ補正を効かせたうえで、何秒までならぶれずに手持ち撮影ができるか、限界の秒数を確かめておくと三脚が必要な場面と手持ちで対応できる場面の判断がつくようになり、撮影の自由度が広がる。

2 フラッシュを使って夜景をバックに人物を撮る



撮影モード M (マニュアル)
絞り F1.2
シャッター速度 1/13秒
露出補正 ±0EV
ISO感度 2500 WB 蛍光灯
使用レンズ M.ZUIKO DIGITAL
ED 45mm F1.2 PRO
焦点距離 45mm
その他 ワイヤレスフラッシュ使用

カメラ設定

夜桜をバックにしてポートレート撮影。モデルの背後でワイヤレスフラッシュを発光させ、桜とモデルの髪の質感を際立たせた。コマンダーFC-WRをボディに取り付けば、外部フラッシュFL-700WRや、レシーバーFR-WRに取り付けたフラッシュを**ワイヤレスで遠隔発光させることができる**（→P57）。電波式なので、被写体の裏側や障害物があっても光らせることができるのが特徴だ。

要点

- ライブタイムで夜景を撮影すると、露出の途中経過を画面で確認できる。
- 4秒程度であれば手持ちでも長秒時の撮影が可能。
- ワイヤレスフラッシュを使うことで夜景撮影の幅が広がる。

Question
01ポートレート撮影で瞳に
ピントが合うようにしたい

Keyword

顔優先 / 瞳優先 AF

被写界深度が浅いときのポートレート撮影では、瞳にピントを合わせるのがセオリーだ。AFの設定を瞳優先にしておくと、カメラが自動で瞳にピントを合わせてくれる。E-M1 IIIの顔優先/瞳優先AFでは、被写体が横や下を向いていても高精度の検出機能が瞳を検出し、ピントを合わせ続けてくれる。

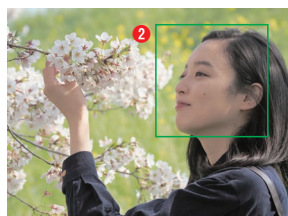
Answer 顔優先 / 瞳優先 AF を使う

■ 顔優先/瞳優先AFの項目

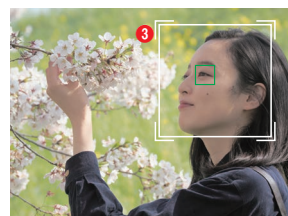
顔優先On	顔優先 AF を使用する。
OFF 顔優先Off	顔優先 AF を使用しない。
顔・瞳優先On	近いほうの瞳を検出して顔優先 AF を行う。
顔・瞳(左側)優先On	撮影者から見て、被写体の左側の瞳を検出して、顔優先 AF を行う。
顔・瞳(右側)優先On	撮影者から見て、被写体の右側の瞳を検出して、顔優先 AF を行う。



LVスーパーコンパネを表示させる。リアダイヤルで「顔優先」①を選択し、フロントダイヤルで種類を選ぶ。



④ 顔・瞳(右側)優先 On に設定して被写体にカメラを向けると、顔を検出してモニターに白い枠が表示される。シャッターボタンを半押しして、ピントが合うと枠が緑色になる④。



被写体の瞳を検出すると、設定したほうの瞳にピントが合い緑の枠が表示される③。この状態でシャッターボタンを全押しすれば、選んだ瞳にピントが合ったポートレートが撮影できる。

Question
02

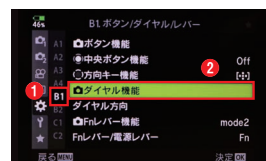
ダイヤルの機能を変更したい

Keyword

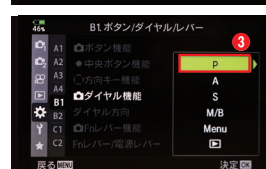
ダイヤル機能 / ボタン機能

ピーキング機能などメニューの中にしかない機能を設定するのは意外と面倒。よく使う機能をダイヤルやボタンに割り当てておくことで撮影がスムーズだ。露出補正だけでなくフラッシュ補正なども設定できるので、使用頻度の高い機能を割り当てよう。

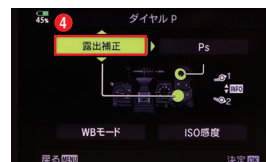
Answer ダイヤル機能で割り当てる機能を選択する



[カスタムメニュー] から、[B1.ボタン/ダイヤル/レバー] を選び①、[カメラダイヤル機能] を選択する②。



△▽で設定変更したいモードを選ぶ。ここでは [P] を選択③。



△▽◁▷でリアダイヤル、フロントダイヤルに割り当てたい機能を選び④、OK ボタンを押す。

ONE POINT

ボタンの機能を変える



ダイヤルだけでなく、ボタンの機能も割り当てておくことで撮影がよりスムーズになる。[B1. ボタン / ダイヤル / レバー] から [カメラボタン機能] を選ぶと、それぞれのボタンにどの機能を割り当てるかを設定できる。

Section
03Olympus Workspace
で画像編集

Keyword

Olympus Workspace / RAW 現像 / 深度合成 / 画像編集

Olympus Workspace (以下Workspace) では撮影情報の確認や画像編集、RAW画像の現像ができる。

1 Olympus Workspace を使う準備

オリンパスのウェブサイトでWorkspaceのダウンロードサイトを開き、カメラ底部に記されているシリアルナンバーを入力してダウンロードし、手順に従いインストールする。

7

画像処理と Wi-Fi の活用

■ ウェブサイトからダウンロード&インストール



オリンパスのウェブサイトにあるサポート/ダウンロードサイトから手順に従ってインストールできる。

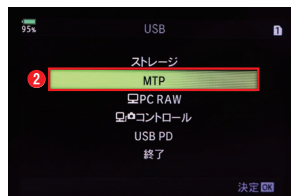
<https://support.olympus-imaging.com/owdownload/>

ダウンロードする際は、カメラ底部に記載しているシリアルナンバーをダウンロード画面に入力する。

2 Olympus Workspace で画像をパソコンに取り込む



カメラの電源を切った状態で、側面のコネクタカバーを開ける。付属のUSBケーブルの小さいほうのプラグをカメラのUSB端子に差し込み①、大きいほうのプラグはパソコンのUSBポートに差し込む。



パソコンでWorkspaceを起動し、カメラの電源を入れる。カメラのモニターにUSBの動作確認が表示されるので、[MTP] を選択する②。



[ファイル] メニューの [取り込み]

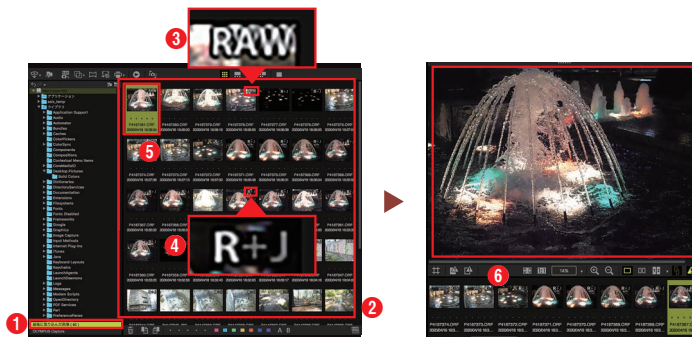
③から、[カメラから取り込み] を選択

する④。

※Windows版とmacOS版では画面の一部が異なります。

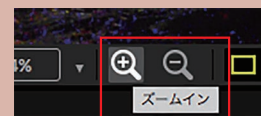
Workspaceにカメラ内の画像一覧が表示されるので、画像の取り込み先を指定する⑤。すべての画像を取り込みたい場合は [すべて取り込み] をクリック⑥。一部の画像だけを取り込みたい場合は、画像を選択し [選択したファイルを取り込む] をクリックする⑦。

3 Olympus Workspace で RAW 画像を現像する



指定したフォルダか、[最後に取り込んだ画像] ①をクリックすると取り込んだ画像がサムネイル (一覧) で表示される②。画像の右上にRAW③と表示されているものがRAW画像、R+J④と表示されているものがRAWとJPEG両方で記録された画像だ。編集したいRAW画像を選択し⑤、ダブルクリックすると選んだ画像が表示される⑥。

ONE POINT 画面を拡大する



ズームインアイコンで部分的に拡大すると、カメラのモニター上では気づかなかったピントのズレやぶれが確認できる。画像をドラッグすれば拡大する表示位置を動かすことができる。

7

画像処理と Wi-Fi の活用